33　北里研究所に所蔵される三木栄作成の研究資料

郭　秀　梅
順天堂大学医学部医史学研究室／北里大学東洋医学総合研究所医史学研究部

三木栄が遺した資料は，おおむね大阪府堺市にある旧居あるいは杏雨書屋と順天堂山崎文庫にあることが今まで知られおり，先行研究がいくつか報告されている．ところが最近，筆者は北里研究所医史学研究部に三木本人の作成資料が所蔵されることを知った．そこで現在までの調査から概略を紹介する．

当資料は三木栄のスクラップブックで，連番によれば本来81冊あっただろう．だが第1・3・4・22・27・32・33・37・49・60の計10冊を欠き，いま所在不明．現存冊のタイトルを以下に列記する．

2応挙人体正写総本，5・6西忍流正伝，7医書大全抄・附阿龍井野宗瑞考，8天文五年刊難経俗解，9本朝経験方・多紀元簡記，10本朝医書目録・多紀氏編・附慶長前医書目録，11痘瘡および麻疹について・その関係備忘録，12アラビアに於ける痘瘡の歴史について・附関係資料雑記，13金瘡療治鈔全・南北朝，14アラビア痘瘡胎毒説東漸考資料写真等，15中央アジア関係医薬・回回・敦煌，16仏教的解剖図・五蔵六府マンダラ，17仁川病院記録明治16～18年，18張仲景撰辨脉法・平脈略例・敦煌本の研究，19海内医林伝・附京阪近代医史科目・西洋学家訳述目録，20医書旧刊影譜・中国医書漢六朝唐宋，21中尾・黒田医薬関係，23医学の跡をたずねて（実験治療），24印度医学研究，25中央アジア・パキスタン・アフガニスタン・イラン等，26西洋脈学関係資料，28アビセンナ注解，29アビセンナ注解・エックレーベン，30ヒュボッター中華医学抄・診断学・脈，31ニードアム欧文中国文化書誌，34・35・36ホウラント解剖図誌ⅠⅡⅢ，38朝鮮医学関係，39東洋西洋文化―医学比較交流史研究，40パキスタン，41中国医薬文化と諸外国（中国資料），42アラビア医学解剖，43エジプト医学・アフリカ，44東西月経不浄説・その展開，45・46ラウファーSino-IranicaⅠⅡ，47日本医学と諸外国の関係・古代，48聖書と医学・イスラエル，50ゴルディエ中国医薬書誌・その他，51医学の跡をたずねて（実験治療），52田中親之明治18年再帰熱流行記事，53東西文化交流・トルコ古代美術展，54東西医学比較交流史，55ヨーロッパ諸国医学，56ギリシア・ローマ医学，57チベット医学，58牛疫考（朝鮮），59東西医学の源流と交流，61メソポタミアその周辺，62ペルシア，63・64（通論）医学史ＡＢ，65東西医学交流・医学文化一元論，66北アジア・シベリア・満洲・蒙古，67トルキスタン医薬考（E），68敦煌医薬文書，69朝鮮医学関係，70漢簡医薬考，71アメリカ・ソビエト，72史前史・人類の歴史，73トルキスタン医薬考（F），74東南アジア，75日本上世文化と諸外国，76・77・79人類医学史，78日鮮医学関係，80疾病史，81中国医学関係

以上より資料の豊富さと広さが明らかだろう．中には昭和4年の資料もあるが，主に昭和30（1955）年から1980年代までの間に書かれた原稿・ノード・メモ・手紙・葉書及び写真・新聞切り抜きなどからなる．

興味深い例を一つ挙げたい．当時，高麗大学校の助手だった金然昌との文通がいくつかあり，最初の1961年9月21日付手紙にこうある．「韓国医学史の研究は此方では金斗鍾先生が高麗時代までの上編を出版しました．李朝時代の原稿は未だ活字化し得ず，其門下で何名の研究生がおる様で彼等の談に依れば，三木先生の医学史以上の事は書き得ないので，良心上に出版する事が出来ないと云います」，と．

ところで三木の長年にわたる労作『朝鮮医学史及疾病史』は1955年に完成したが，資金がなく上梓が遅れていた．このため金斗鍾『韓国医学史』が先に出版され，それを贈られた三木の無念さを吐露したメモが旧居で見いだされている．そして新たに見いだされた金然昌の手紙より，三木の研究成果が韓国ですでに認められていたことも裏付けられた．

この厖大な資料は三木氏が我々に遺した宝である．その中から新たな資料を見いだし，今後も三木の学問性を各国医史界に発信したい．